市民の誰もが安心して暮らせる国分寺市をつくりたい。

このニューズレターは、さまざまな分野の地域課題を掘り起こし、一つひとつ解決に向け取り組んでいく、自立支援協議会の報告をお届けするものです。第２号では、自立支援協議会が取り組む「まちづくり」について、３つの専門部会の最新レポート、協議会の各委員のごあいさつを掲載いたします。平成30年度に新しく立ち上がるサービス事業所もあり、国分寺市の障害福祉の充実が期待されます。

まちづくり入門 ―― ひとと場所、ひととひとをつなぐ

長沼行太郎（まちづくり研究家）

「まちづくり」というと資格のいる専門的なことのように思いがち。そのせいか、私たちは毎日まちとかかわっているのに「まちづくり」をとくに意識することはない。そこで、ひとはどんなときにまちづくりを意識するものか、住人だけでなく、働きにくるひと、訪れるひとの視点も入れて考えてみた。その一端を紹介しよう。

六本木に住む知人から近況を知らせるエッセイが届いた。早朝のヨガに出かける道にマンホールがあって、その下で水の流れる心地よい音がする。彼女はそこを「私の水琴窟」と呼んで朝の楽しみにしているという…。

そこは「私だけの秘密のスポット」であってもいいし、「まちの名所」としてPRしてもいいのだけれど、まちのなかの知られていないスポットに名前や物語をつけるのはすてきな方法だと感心した。あの角を曲がるときに良いアイデアが浮かぶ、だからあそこは「アイデア横丁」とか。――このように、ひとと場所をむすびつけるのがまちづくりの第一歩だと思う。グループでまちあるきをすると複数の観点からまちづくりのヒントが見つかる。

＊　＊　＊

国分寺とその隣町の国立は、年来、通勤や読書会で利用してきたまちなので、私は親しいつもりでいたけれど、まちづくりというテーマで考えるのは初めて。

国立はコンセプト先行、都市計画のまちだ。平坦でまっすぐに放射する国立の整然とした街路を歩いた感覚で隣の国分寺のまちを歩くと、「ごちゃごちゃ」、崖あり、カーブあり、小道あり。古代の道の上にくねくねの農道ができそこへ新興住宅の街区がかさなり…このまちはいろんな意味でレイヤー（層）が厚い。住民の新旧にも幾層ものレイヤーがありそうだ。

西国分寺駅の近くには、中央線の線路をはさんで、姿見の池と、東京西部の情報中心である都立多摩図書館とが向かい合っている。姿見の池には小道が通り線路とのあいだに雑木林があって、なにやら小さな隠れ里にはいったような気分を味わえる。

大東京の重心に位置するというこのまちには、都会の要素と田舎の要素、古代と現代、その両方の要素が混生している。その両方を楽しめるまちだ。それでこの異種混生の微妙なバランスが変わらないでいたらいいなと、ふと「変えない作らないまちづくり」なんてことを考えてしまった。

ただ、変わらないでほしいと思っても長寿化する地域社会には新たな課題もある。「自宅で最期まで暮らせるまち」を多くの人が望んでいるのだけれど、本当に実現できるか。「歳をとればだれもが障害者」、だから在宅の医療と介護のネットワークづくりはぜひとも必要だ。同時に、住宅のシェアや住み替えなどで世代間の交流ができ、終末期以降のことや死生観についても話しあえるようになったら、まちには未来につながる循環が期待できる。いろんな接点でひととひとをつなぐことが「生き生きとしたまちづくり」のもうひとつの課題だ。

―プロフィール―
ながぬま・こうたろう

1976年、東京都立大学大学院（修士）修了。高校・大学の教員を歴任（メディア論）。現在、一般財団法人知恵の継承研究所理事、コミュニティカフェ（さいたま市）の運営、まちあるきと都市・田舎の交流活動に参画。共同研究に「ニュータウンのうわさパニック」「次世代の都市生活を豊かにする知恵のアーカイブ」、論文に「ケアを軸としたコミュニティづくり」、著書に『嫌老社会』（ソフトバンク新書）ほか。

各専門部会より、最新レポート！

◆国分寺市障害者地域自立支援協議会の3部会員より、各専門部会の進捗状況をお届けします。

◆専門部会は、専門分野ごとに、各メンバーと検討・協議を重ね、自立支援協議会の全体会に報告する役目を担っています。

相談支援部会部会員　中野 悟 社会福祉法人はらからの家福祉会 地域生活支援部 地域生活支援センター プラッツ 部長

地域生活支援センター プラッツで、他の事業を兼任しながら、相談支援専門員として従事する中野と申します。私が担う相談支援専門員の役割の一つに、障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画」*の作成があります。

今年度、相談支援部会の計画相談ワーキンググループでは、2つの作業を行いました。1つ目は、国が示す「サービス等利用計画」様式の見直しです。わかりやすく使いやすい“国分寺オリジナル”様式を整えているところです。2つ目は、「自己紹介シート」の作成です。初回相談で聞き取る基本情報を、利用者に事前に記入いただき、相談の効率を図ることで、より中身の濃い支援を行うことが目的です(未記入でも相談可)。また、本用紙を自身が保管し、各窓口に提示いただくことで、どの機関の相談も、スムーズに本題に入ることができます。

一方、計画書はサービス利用に限られるものではなく、「地域で、自分らしく、安心して」暮らすために必要で、大事なことを本人と相談員が一緒に考え、共に作成するものです。相談員の質の向上はもちろん、相談の流れや書式を見直すことで、より皆さまの生活に寄り添った支援ができるよう、今後も検討を続けてまいります。

＊2015(平成27)年度に、すべての利用者に対して作成することが義務づけられた。

就労支援部会部会員　石丸邦子 社会福祉法人けやきの杜 国分寺市障害者就労支援センター 生活支援コーディネーター

障害者が安心して働き続けられるように、東京都では「区市町村障害者就労支援事業」を実施しており、その一機関である国分寺市障害者就労支援センターで、生活支援コーディネーターを務める石丸と申します。当センターでは、その他、就労支援コーディネーター、地域開拓促進コーディネーターが配置されており、職業相談等を通じて障害者が地域で働くことを支援しています。

障害者雇用は、法律で義務づけられ、雇用枠(法定雇用率)や法制度も目まぐるしく変動し、雇用環境は拡がりをみせています。精神障害者の就労支援にかかわる機関の連携強化が促されるなか、国分寺市でも2017(平成29)年9月に「地域の就労支援機関と医療機関の連携による精神障害者の就労促進に関する意見交換会」が開催されました。精神障害者の就労支援では、就労移行事業・医療機関・ハローワークの連携は必要不可欠となります。

障害者の就労支援は、就職先決定がゴールではなく、企業側へ就職希望者の障害特性等の情報共有を行い、安心して働き続けられる環境づくりの架け橋となることを目指します。今後も「顔の見える関係」を大切にしながら、就労希望者が生き生きと働ける職場開拓や就労定着支援を行ってまいります。

精神保健福祉部会部会員　佐々木純也 医療法人社団根岸病院 認知症疾患医療センター ソーシャルワーカー

根岸病院は、府中市の認知症疾患医療センターを受託しており、私はソーシャルワーカーとして市外・近隣の方の入院相談、退院支援等、さまざまな業務を行っております。

入院する方の中には、諸般の事情から、長期間の入院となる方もおられます。理由には、病状の他に、本人が自宅に戻る際の家族及び近隣の方の不安、サービス調整の難渋等があります。当然、退院しても、その方の人生は続いていくので、そのような方々が安心して退院し、地域生活を続けられるように、医療と福祉との連携を強化していきたいと考えています。

精神保健福祉部会では、長期入院している方の地域移行への課題、必要な対応について、多職種が参加して協議を重ねています。そこで出た課題について、現在の福祉サービスの中でできること、今後、必要になるだろう支援について話し合い、市民が安心して暮らせるまちづくりを目指しています。今年1月末には、当部会に、国分寺市の民生委員・児童委員の皆さまをお招きし、最前線で地域の方々を見守ってくださる様子をうかがいました。このような結びつきを今後も強くすることで、ネットワークを広く、大きく育てていきたいと思っています。

国分寺市障害者地域自立支援協議会　各委員より　ごあいさつ

◆国分寺市障害者地域自立支援協議会委員の皆さまのご紹介です。

◆今号は、自立支援協議会に対する期待や希望を、一言ずつ語っていただきました。

副会長　坂田晴弘 社会福祉法人万葉の里
国分寺市地域活動支援センターつばさ 管理者

自立支援協議会 副会長の坂田晴弘と申します。つばさでは、市内の障害のある方やその関係者、市民の皆さまのさまざまな相談をお受けしています。また、障害のある方が、気軽に集まれる交流サロンの運営、社会参加・余暇・体験機会の提供など、幅広いプログラムを行っています。

私は大学生のころに福祉に出会い、障害児施設でボランティア活動を行ってきました。その経験から障害のある方々の支援にかかわり、30年余りが過ぎ、縁あって、国分寺市障害者センターの建設や法人設立に携わり、仕事を続けてきました。これも、利用者、関係者、地域の皆さまのおかげと感謝しています。

さて、本誌前号で石渡会長は、協議会には「まちづくり」の役割があると述べました。障害があってもなくても相談相手がいることは、人の暮らしにとって重要です。その相談相手が、自分をよく理解してくれ、その想いを実現する多様な連携があれば、もっと積極的にイキイキと生きることに、力が湧いてくるのではないかと考えます。「皆が元気なまち」「誰にも優しいまち」をつくるには、互いに思いやりを持つことが大切ではないでしょうか。協議会の相談支援部会でも、本人の想いに寄り添い、ニーズを的確に把握し、本人の夢を叶えるために、社会とのつなぎ役を担う「相談支援」の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。

神原富美子
国分寺市手をつなぐ親の会

知的障害児・者の家族で構成する「国分寺市手をつなぐ親の会」の神原と申します。

障害者の親から「親亡き後も健やかに生活してほしい」という話をよく耳にします。それには、当事者やその家族が何を希望しているのか、相談支援(計画相談)が重要になります。

計画を基に本人のライフステージにそった、隙間のない支援体制を構築し、実施することで、少しでも不安を解消できればと考えます。

誰もが住みやすいまちになるよう、私も協議会に参加し、当事者や家族の声を発信したいと思います。

ハローワーク立川
公式キャラクター
「こぶしあ」

小泉久美子 立川公共職業安定所
主任就職促進指導官

ハローワーク立川で障害のある方専門の窓口を担当する小泉と申します。障害のある方、企業、双方への支援において、マッチングを図り、就職に結びつけ、就職後の定着支援を行っています。

この4月から、法定雇用率が5年ぶりに引き上げられ、算定基礎対象に、新たに精神障害者が追加されます。障害者雇用では、就職準備から就職、就職後の定着まで、関係機関、ご家族、企業等、取り巻く方々との連携が欠かせません。今後も横のつながりを大切に、連携を密に皆さまと支援を行っていきたいと思います。

古川健太郎 第二東京弁護士会
弁護士

私は、生まれも育ちも国分寺です。地元の福祉に関わりたい、との思いからこの自立支援協議会の委員を引き受けました。

弁護士としては、現在、成年後見人等として、統合失調症、高次脳機能障害、広汎性発達障害の方々をサポートしています。また、弁護士会多摩支部では、高齢者・障害者の権利に関する委員会に参加しています。

当協議会に参加し、「障害者」と言っても、障害の内容や課題状況は多様であると再認識しました。今後とも地域の情報を共有し、福祉のネットワークと弁護士との連携を図りたいと考えています。

赤阪早苗 東京都立武蔵台学園
進路指導主任

創立50周年の本校の知的障害部門は、小・中学部、高等部の児童・生徒が約300名います。卒業後の進路先決定に向けた進路指導に携わっています。今年4月、民間企業の障害者の法定雇用率が2.2%に引き上げられ、雇用拡大が期待されます。

当協議会に参加し、地域が抱えている状況を共有し、障害者の社会参加と自己実現へ向けた、就労支援に関する課題解決のためのネットワークづくりのお役に立てればと思っています。

AnnBeeの菓子店が国分寺マルイにオープン！

～市内に福祉作業所製品の販売拠点が新たに生まれ、障害のある方と地域とのつながりが拡がっています～

福祉作業所で働く障害のある方への安定した工賃の支払いを目指し、菓子店創業当初から、国分寺マルイに常設店を構えることを目標としてきましたが、念願が叶い平成29年10月、国分寺マルイ1階に店をオープンしました。武蔵国分寺サブレが「多摩の逸品」を受賞した平成22年春から、同店地下1階にて催事出店を重ねる毎に常連のお客様が増えていきました。各店舗の担当者など多くの方が、商売の素人である私たちに、いろいろ教えてくださったおかげで今日があると思っています。福祉作業所で働く障害のある方々は、力やスピードも飛躍的に伸び「障害を持った人」ではなく一般社会と競争できる個々の役割を持った仕事人として活躍しています。彼らの姿勢から、人として仕事を持ち、役割を持ち生きることの重要な意義を痛感させられる毎日です。そんな彼らに、1日を通してしっかり働ける仕事を提供することが、法人としての重要な役目だと思い、多くを学びながらよりたくさんの方々に愛されるお菓子を作っていきたいと思っています。

(社福)Ann Bee　理事長　木下るみ子　就労支援部会部会員

であいものロールケーキ
1本1,620円(税込)　カットサイズ286円(税込)

国分寺うまれの、旬な野菜と果物で作りました

「すけだちくん」
東京都の障害者理解促進キャラクター

国分寺市の地場野菜の地産地消の取り組み「こくベジプロジェクト」とタイアップし、国分寺産の野菜を使用したロールケーキだよ。

店舗情報

●製造直売所（社会福祉法人 AnnBee）
国分寺市西元町 3-6-14　☎042-359-4555
営業時間 10時～18時　日・祝日定休日

●国分寺マルイ店　国分寺市南町 3-20-3　1F

商品に関するお問い合わせは AnnBee まで　営業時間はマルイに準ずる

♪新規事業のお知らせ♪

国分寺市内の新規3つの事業を紹介します。

【1】

児童発達支援事業所「anto（あんと）」：社会福祉法人AnnBeeが、12月に開所した「anto（あんと）」では、少人数制による療育を中心に、さまざまな「遊び」を通じて楽しみながら成長・発達を促すことをコンセプトにしています。
国分寺市西元町 3-11-17
☎：042-407-6651

【2】

「食彩工房プラスワン」：社会福祉法人けやきの杜が、4月に就労継続支援B型事業所を開設します。希望園（のぞみえん）の食品加工製造とワークセンター・さくらの饂飩（うどん）製造、地域活動支援センター虹の菓子・パン製造の各部門を統合して、総合的な食品製造・加工事業所がスタートします。
国分寺市戸倉 3-2-19

【3】

社会福祉法人万葉の里が、6月（予定）に生活介護事業・共同生活援助事業・短期入所事業を開設します。
また、ヘルパー派遣事業所ウイングと国分寺市障害者基幹相談支援センターが同所に移転します。すべての人が暮らしやすい地域づくりに向けて活動を展開します。
国分寺市東戸倉 2-7-26
建物名称：KOCO・ジャム

障害者週間行事報告

毎年12/3-9は、障害者週間です。国分寺では12月9日に障害者週間行事*が、ロビーコンサートと同時開催され、例年より多くの参加者がありました。

障害福祉をテーマとした小学生の作文発表「けやきフェスタ作文コンクール作品」、各団体の合唱や楽器演奏が披露され、会場が一体となって盛り上がりました。毎年好評の東京国分寺ロータリークラブによる障害のある方の絵画展「ニコニコアート展」(12/3-10)も開催され、障害福祉に対する関心や理解が一層深まる、充実したイベントとなりました。

＊共催：国分寺市福祉保健部障害福祉課 / 本多公民館 / 喫茶ほんだ / 国分寺市障害者福祉を進める会

国分寺市障害者地域自立支援協議会 平成30年度開催日程（予定）

	本会議	専門部会		
		相談支援部会	就労支援部会	精神保健福祉部会
4月				
5月		第1回	第1回	第1回
6月	第1回			
7月				
8月				
9月		第2回	第2回	第2回
10月	第2回			
11月				
12月		第3回	第3回	第3回
1月				
2月		第4回	第4回	第4回
3月	第3回			

全体の流れ
専門部会 → 本会議1 → 専門部会 → 本会議2 → 専門部会 → 本会議3

※本会議と各専門部会が、連動して協議を行える仕組みとなっています。

※本会議及び各専門部会を開催する前には、事務局会議を行います。

※各専門部会では、必要に応じてワーキンググループを組織し、随時会議を行うほか、外部講師を招聘し、研修会やセミナー等を実施します。

※ニューズレターは、年2回発行します。

編集後記

2月2日、オリンパスホール八王子で日弁連第15回「高齢者・障がい者権利擁護の集い」シンポジウムが開催された。大雪で開催が危ぶまれるなか、724名の参加があり関心の高さがうかがわれた。

講演内容は、もちろん考えさせられるものだったが、「開催まで23回打ち合わせたが、これで終わりではありません！」と熱い言葉が開催者からあった。我々も研修会を催すが、10回も打ち合わせをすれば満足していたと反省した。こんなにも熱い弁護士の方々が我々の地域には、いる。連携のネットワークをもっと強く、大きく、一人ひとりの意思が尊重される社会を、築きたいと思った。

皆さまにお知らせが一つあります。本誌事務局の基幹相談支援センターが、今年6月に移転します。このページ内に案内があります。今後ともよろしくお願いします。

事務局編集部

発行

国分寺市障害者地域自立支援協議会ニューズレター
平成30年（2018年）3月発行
発行：国分寺市障害者地域自立支援協議会
編集：国分寺市障害者地域自立支援協議会 事務局

国分寺市福祉保健部障害福祉課
〒185-8501　東京都国分寺市戸倉1-6-1
☎：042-325-0111　FAX：042-324-6831

国分寺市障害者基幹相談支援センター
〒185-0024　東京都国分寺市泉町2-3-8
☎：042-320-1300　FAX：042-321-1207

印刷：社会福祉法人東京コロニー